

ハラタケ目ホウライタケ科

ツキヨタケ

Lampteromyces japonicus (Kawamura) Singer, 1947

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県西部および中部、2003年に県東部で分布が確認された。本種はおもにブナの腐朽材上に生育するため、ブナ林の減少とともに、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は傘と柄からなる。傘は半円形から腎臓形、幅10-25cm。傘上面は平滑、黄橙褐色でやや濃色の小鱗片で覆われているが、成熟すると紫褐色から暗褐色となり、多少蠟状の光沢をおびる。ひだは暗下で青白く発光し、幅が広く、2cmにおよぶこともある。柄は太短く、長さ1-3cm、幅1-3cm、傘の側方につき、ひだの付け根との間に狭くて低い環状のつばのような隆起帯がある。傘の肉は白色、軟質、周辺部は薄い、柄に近い部分は厚くなる。柄の内部は通常暗紫色から黒褐色で、この点においてシイタケ、ヒラタケ、ムキタケなどの類似種か

ら区別できる。担子胞子は球形、平滑、径11.5-15μm、しばしば厚壁、非アミロイド性。

本種はロシア極東地方および朝鮮半島に分布する。国内では本州、四国、九州のブナ林に広く分布し、夏から秋にかけてブナの倒木や立ち枯れた木に発生するが、イタヤカエデなどにもしばしば生じる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内全域において倒木および立ち枯れのブナが比較的多いブナ林。

【存続を脅かす原因】

ブナ林の減少による生育域の狭小化および生育基質の減少。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

ハラタケ目クヌギタケ科

ウスキブナノミタケ

Mycena luteopallens (Peck) Saccardo, 1891

島根県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 口絵18

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

国内における分布が比較的まれである。県内では近年まで確実な分布の記録はなかったが、2002年に県西部、2003年に県東部のブナ林で分布が確認されている。本種は落葉や腐植に埋没したブナの堅果に生育するため、ブナ林の減少とともに、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は傘と柄からなる。傘は径3-15cm、初め卵形、円錐形、のちほぼ平らに開く。傘上面は平滑、黄色から淡黄色、のち淡黄土色から類白色となり、湿時条線をあらわす。ひだは直生からやや垂生、淡黄土色、やや疎。柄は細長く、長さ5-7cm、幅1mm、黄色から淡黄色、中空。柄の基部は黄白色で根状に伸び、淡黄色の軟毛をつける。担子胞子は卵形から楕円形、8.5-12×4.5-5.5μm、はじめやや粗面でアミロイド性であるが、成熟すると平滑で非アミロイド性になる。

本種は北アメリカ東部に分布する。国内では本州、四

国、九州のブナ林に分布し、比較的まれな種で、10月から11月頃に発生する。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部および西部のブナ林において分布が確認されている生育地はブナなどの腐植や落葉が堆積した地域であり、本種子実体はこれらの堆積した比較的乾燥しにくい林床に埋没したブナ堅果から発生する。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、基質であるブナの減少、生育場所の乾燥化。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○																	